

化学変化を 起こさせ!

挑戦→成長→やりがい

あなた
×
CERI

新しい事を覚え、色々な事に挑戦し、そして成長していく…これからは真の勉強です。
CERIはあなたの意欲を積極的にサポート。
職員一人一人の成長がCERIの飛躍に繋がるのです。
『あなた×CERI』でよりよい社会づくりを目指しましょう。

理事長からのメッセージ

1949年に発足した当機構は、2019年2月8日に創立70周年を迎えました。

当初はゴムの検査業務から始まった団体でしたが、現在は高分子技術部門、環境技術部門、化学標準部門、クロマト技術部門、化学物質安全部門及び安全性評価技術研究所まで事業を充実、拡大してきました。

70周年を迎えた今、30年後の100周年を見据え、その時代に合わせた革新を行っていく必要があります。CERIの事業部門は多岐にわたっていますが、どの部門も「化学物質評価」という共通のキーワードがあり、それぞれ個々

の技術を持っています。これからはその技術をその部門だけではなく、他部門とコラボレーションし、共に考えていくことで、新たな付加価値を生み出していきたいと考えています。

私たちは、今後とも中立公正な立場で化学物質と化学製品の評価、管理に関する最良のソリューションを提供し、人と化学と環境の調和した安全・安心な社会づくりに活躍の場を広げていきたいと考えています。そのために、技術力はもとより、向上心あふれる若者の入構を待っています。

一般財団法人化学物質評価研究機構
理事長 今田中 伸哉



CERIで扱う仕事は、化学に関わるものですが、その内実は多岐にわたります。そのため担当する業務ごとに職員一人ひとりが各分野で専門家になる必要があります。世の中の変化が加速する現在、若い職員にこそ、論文発表や学会発表等を通して、既成概念に囚われない研究に果敢にチャレンジしてほしいと望んでいます。CERIはそのようなチャレンジをサポートしています。雰囲気の良い職場環境を活かし、技術的に成長し続けることを忘れないでください。一般的な製造業などと違い、新商品の開発やゼロから物を作り出す業種でないという意味で、CERIの仕事は地味なのかもしれません。大切ではあっても表に出ない、しかしこうした“縁の下力持ち”の重要性は説明するまでもありません。裏方であることにやりがいを感じ、

CERIの魅力と 求める人物像

意欲を持てる人物にこそ入構してほしいのです。もちろん前提として、化学そのものが好きで、化学的バックグラウンドが確かであることは必要です。

また、「一般財団法人」というCERIの立場を知っていくことで、一般企業とは異なる仕事の面白さも発見できるはず。CERIは、その立場の特殊性から行政機関や民間の様々な企業の方達とも幅広いお付き合いができます。それは日本の多くの行政機関、民間企業の技術・研究を支える重要な業務を担っているからです。

大学で学んだ専門分野にこだわりすぎず、柔軟な姿勢で、かつ物事を長い目で考えられる人材を求めています。CERIでの経験を積むことで、ともに理解を深め、互いに成長していきましょう。

化学物質安全部門

化学物質が自然環境や人の健康に及ぼす影響を事前に評価するために、「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律」(化審法)に規定されている分解度試験、濃縮度試験、毒性試験などの安全性試験を主にしています。

高分子技術部門

私たちの生活の安全のために、ゴム、プラスチックなどの高分子材料及びその製品について、成形加工、物性、化学分析等を通じて、その性能や安全性などの総合的評価試験を実施しています。さらに、蓄積された豊富なデータと最新の技術を生かし、材料・製品の寿命予測、事故原因究明等を行っています。

環境技術部門

化学物質の環境影響を評価するために、大気、河川、海水、土壌等環境中や身の回りの製品などの化学物質について環境モニタリングや各種法律に対応した環境測定をしています。

化学標準部門

計量法トレーサビリティ制度に基づく「指定校正機関」として、経済産業大臣の指定を受け、環境測定等に使用する標準ガスや標準液などの特定標準物質(国家標準)の製造・維持・管理と特定二次標準物質の校正(値付け)を行っています。

クロマト技術部門

機器分析に欠かすことのできないクロマトグラフィー用カラムの開発・製造・供給を行っています。液体クロマトグラフィー用カラムはL-column、ガスクロマトグラフィー用カラムはG-columnという名称で供給しています。

安全性評価技術研究所

化学物質の安全性を評価する新たな試験方法の開発や、化学物質のリスク評価など、化学物質の安全性評価に関する研究開発、調査及び事業化を行っています。

事務部門

CERIの業務を円滑に実施するために、理事会・評議員会、経営企画、人事、労務、企画などに関する事務全般を担っています。

本部

〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル7F

TEL:03(5804)6131 FAX:03(5804)6139
 総務部 TEL:03(5804)6131 FAX:03(5804)6139
 企画部 TEL:03(5804)6132 FAX:03(5804)6139
 化学物質安全センター TEL:03(5804)6134 FAX:03(5804)6140
 安全性評価技術研究所 TEL:03(5804)6135 FAX:03(5804)6139

東京事業所

〒345-0043 埼玉県北葛飾郡杉戸町下高野1600番地

TEL:0480(37)2601 FAX:0480(37)2521
 安全性評価技術研究所 TEL:0480(37)2601 FAX:0480(37)2521

名古屋事業所

〒466-0858 愛知県名古屋市昭和区折戸町4-1

TEL:052(761)1185 FAX:052(762)6055

大阪事業所

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-5-55

TEL:06(6744)2022 FAX:06(6744)2052
 化学物質安全センター大阪支所 TEL:06(6744)2045 FAX:06(6744)2052

久留米事業所

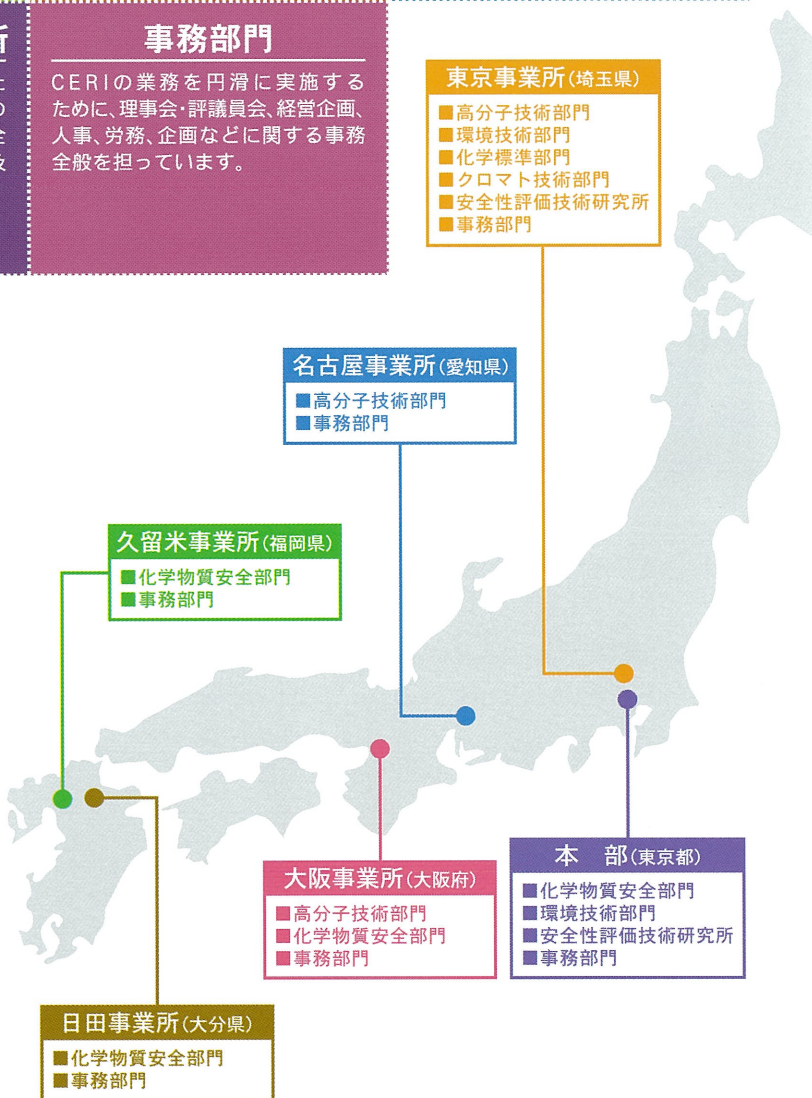
〒839-0801 福岡県久留米市宮ノ陣3-2-7

TEL:0942(34)1500 FAX:0942(39)6804

日田事業所

〒877-0061 大分県日田市石井町3-822

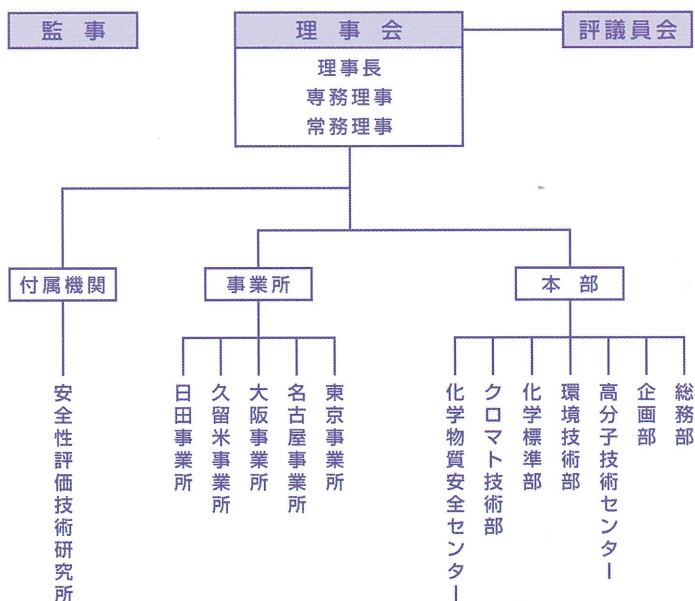
TEL:0973(24)7211 FAX:0973(23)9800



沿革

昭和24年	▶財団法人ゴム製品検査協会として設立
昭和47年	▶名称を財団法人ゴム・化成製品検査協会に改める ▶環境測定部門(現、環境技術部)を新設し、環境公害分析業務を開始
昭和48年	▶名称を財団法人化学製品検査協会に改める ▶化学製品安全センター(現、化学物質安全センター)を新設し、化審法による安全性試験業務を開始 ▶標準ガス部(現、化学標準部)を新設し、計量法による公害計測用標準ガスの検査業務を開始
昭和57年	▶日田研究所(現、日田事業所)を新設し、哺乳動物を用いた安全性試験業務を開始
昭和61年	▶クロマトグラフ用カラムを開発し、供給を開始
平成6年	▶安全性評価技術研究所を新設
平成11年	▶名称を財団法人化学物質評価研究機構に改める ▶本部を文京区後楽へ移転
平成13年	▶東京事業所を埼玉県北葛飾郡杉戸町へ移転
平成16年	▶久留米事業所を久留米市宮ノ陣へ移転
平成18年	▶大阪事業所を東大阪市荒本北へ移転
平成19年	▶日田事業所を建て替え
平成20年	▶東京事業所に別館を建設
平成22年	▶一般財団法人へ移行 ▶名古屋事業所を改装 ▶日田事業所に別館を建設

機構図



無我夢中だった自分が やりがいを感じ始めた時、 更に上を目指したくなった。



1

久留米事業所
試験第五課
太田 裕也

平成20年入構



私は、化学物質や農薬の物理化学的性状を調べる部署に所属しています。一口に物理化学的性状といっても、測定する項目は融点や蒸気圧、加水分解速度など多岐にわたるため、その試験方法も様々です。

対象となるのは新しく開発された新規化学物質ばかりなので、それに対応する大変さは、この部署に配属されて何年経っても変わらず感じています。得られた実験結果が予想と異なったとき、「なぜそうなったのか?」「どうすれば改善できるのか?」をデータから考え、解決していく過程はとても面白いものです。そして、その結果に自信を持って報告書としてまとめることにやりがいを感じます。時には、自分だけでは解決できない難題にぶつかることもあります。

CERIには化学に関する試験を行う様々な部署があり、その道に精通した職員が大勢います。そんな先輩たちの意見が解決の糸口になることもあります。様々な視点から、化学についての物事を捉えられる—それがCERIの強みですね。

2

東京事業所
高分子技術部
技術第三課
岩瀬 由佳

平成21年入構

私の部署では、ゴムやプラスチックなどの有機材料の評価や組成分析をしています。最初に受け持った業務では、私の技術や知識が未熟だった事もあり、思うような仕事ができずに不安を抱え、この仕事をやっていけるのかと思い悩んだこともありました。しかしその時の率直な気持ちを上司に相談したところ、本当に丁寧に指導をしてもらいました。それによって私の迷いはなくなり、前向きに取り組めるようになりました。その後、粘弾性の試験を担当するようになり、その業務が今度は私の「やる気」に火をつけました。同じ物質でも使い方により硬い場合と柔らかい場合があるという、誰もが何となく持つ感覚を数値化できるこの試験が、今は面白くてたまりません。自分が行う試験が、スマートフォンのケースやタイヤなど、世の中に溢れる製品としてフィードバックされていく姿を目の当たりにすると、大きな仕事をしている、と実感します。CERIには、やりたいことを応援してもらえる環境があります。何事にも挑戦したいと思う人にこそ、入構してほしいと思います。



CERIはあなたの意欲を バックアップします。



CERI Voice

先輩に聞きました!

Q1 あなたの仕事の“やりがい”は何ですか？

Q2 入構当時と今を比較し、一番成長した事は何ですか？

Q1

大気中・河川水中の化学物質濃度の分布状況や推移状況を環境調査できること。

Q2

コミュニケーション能力。業務を通じて多くの人と接することで、積極的に行動できるようになった。



環境技術部 岩崎さん

Q1

お客様の目的・予算に沿って提案した解析プランによって試験を受注し、報告書に納得いただけたことです。

Q2

社内、社外の方々と様々な意見交換を行い、得た情報を業務に反映させていけるようになったこと。



安全性評価技術研究所 石田さん

Q1

新規化学物質の安全性や環境への影響を確認するため、まだ誰も取得していないデータを取ることに。

Q2

時間に対する意識。業務時間内で仕事を終わらせるように、時間の使い方を工夫するようになりました。



久留米事業所 西尾さん

Q1

経験や知識を十分に活かして、依頼者に満足して頂けるような報告書を発行すること。

Q2

入構時は仕事を教わる立場だったが、先輩を指導でき、新たな分析方法を提案できるようになったこと。



大阪事業所 大嶋さん

Q1

自分の測定結果が計量法に基づく標準液の濃度に反映され、化学分析の“ものさし”として役立っていること。

Q2

育児と仕事の両立のため、オンとオフを区別し、集中してメリハリのある仕事ができるようになった。



化学標準部 田原さん

Q1

事故原因究明業務で報告書を読んだ依頼者から感謝のお言葉を頂いた時にやりがいを感じます。

Q2

高分子材料の各種分析に関する専門知識量が増えました。



高分子技術部 齊藤さん

Q1

製品の性能向上や営業活動などを通して、ユーザーに満足いくサービスを届けることができたとき。

Q2

LC分析の知識。最初は化学分析の経験がほとんどなく、右も左もわからない状態でした。



クロマト技術部 緒方さん

Q1

お客様を訪問してニーズを理解し、必要十分な試験を提案・実施してお客様に喜んでいただけた時。

Q2

学会で、他機関の研究者や専門家の方々と議論できる程度の専門的知識・技術を身につけたこと。



日田事業所 小林さん

Q1

各部所の支払いなどを確認することで、機構全体の活動を実感できる点にやりがいを感じます。

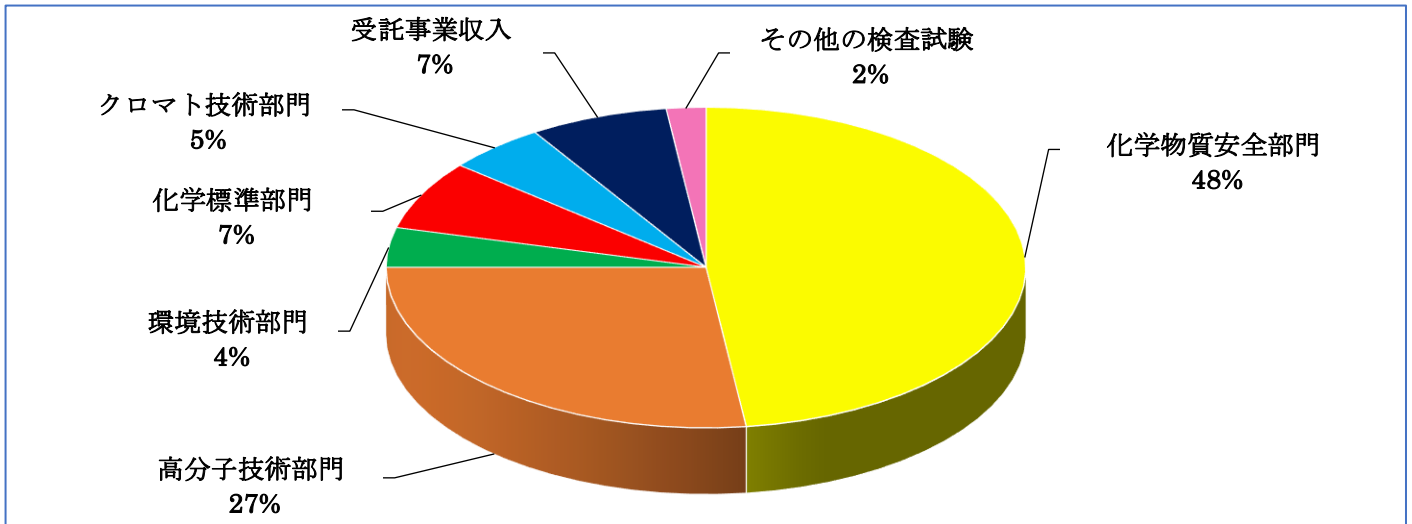
Q2

自分の仕事の後にある業務を考えて、計画的に作業することを心がけるようになりました。

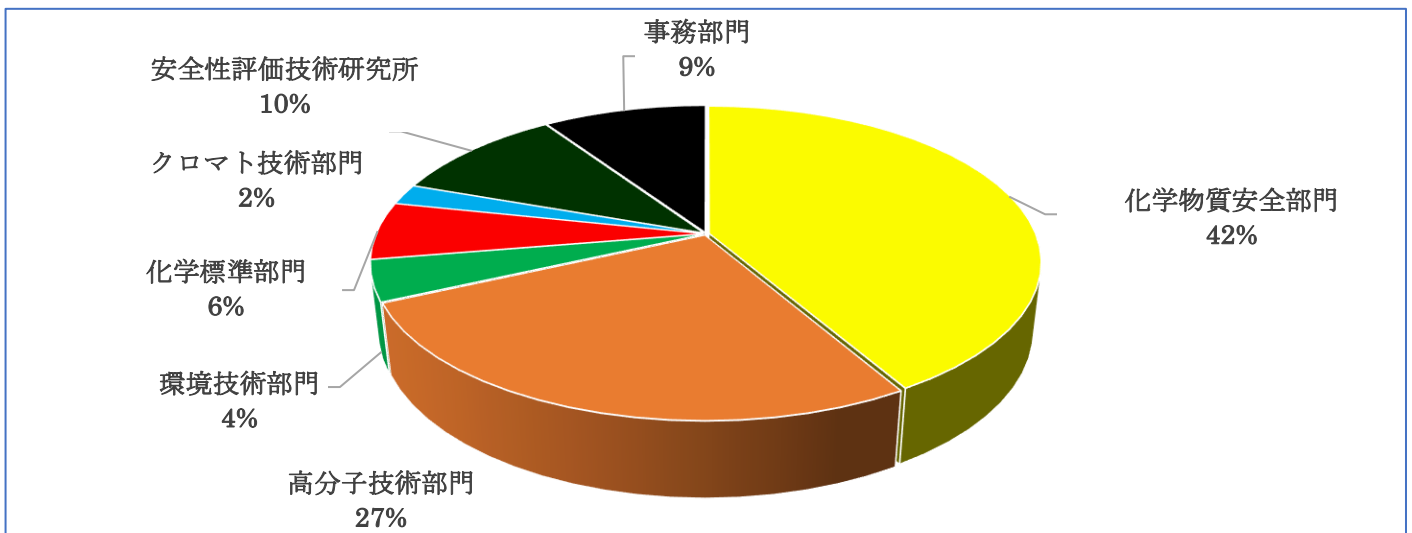


総務部財務室 日高さん

部門別収入割合



職員構成割合(部門別)



職員構成割合(事業所別)

